

# 一般質問

6月定例会では、24人の議員が一般質問を行いました。  
質問の持ち時間は答弁を含めて1人60分です。  
ここでは紙面の都合上、1人1項目を選び質問・答弁を要約し、分野ごとにまとめて掲載しました。

※2次元コードから一般質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。  
※6月定例会の一般質問は6月7日に通告を締め切り、6月19日から6日間の日程で行いました。

塩浜三番瀬公園の階段式護岸



## 平和

これからの平和行政

**中村よしお議員(公明党)**  
大変な逆風の中ではあるが、本市は「核なき世界」を目指し、これから更に粘り強く行動すべきであり、

**時代に合った取り組みをすべく  
一歩進めた具体的な対応を検討する**



また、これからの時代に合った平和行政に取り組んでいくべきであると考えて、本市の平和行政について市長の考えを問う。

答 本市の核に対する、そ

して、平和に対するこれまでの姿勢は決して間違っていないかったと胸を張っているのではないかと考えている。しかしながら、本市が行う平和事業が、核兵器廃絶平和都市宣言をした自治体として相応しいものとなるよう、更に一歩進めた具体的な対応を検討し、実行していきたいと考えている。

## 街づくり

塩浜三番瀬公園

**冨家薫議員(チームいちかわ)**  
塩浜2丁目護岸はきれいに整備されており、塩浜三番瀬公園の海側は、一部の区間が水際近くまで降りる

**干潟化に向けた市の取り組みは  
県への働きかけを継続していく**



このことできる階段式護岸となっている。市民が安心して海に親しめるよう、本護岸前面を干潟化すべきと考えるが、市の見解を問う。

答 本市は以前より県に対

して、階段式護岸前面に海に親しめる場として干潟化の要望を行ってきたが、三番瀬全体の再生が限定的であることから困難とされてきた。しかし、市民が海と直接触れ合える水辺の実現は大変重要であるため、今後も県に対する働きかけを継続しながら、市としても調査・研究をしていく。

## 行政

宮田小学校の建て替え

**越川雅史議員(無所属の会)**  
宮田小学校の建て替えについては、令和8年度以降まで、少なくとも3年間先延ばしにする計画案が突如

**地域住民の納得を得られる対応を  
個別に適宜対応していく**



示された。この先送りの判断は同校の建物に限った話ではなく、災害発生時の住民対応などに影響を及ぼすばかりか、他の学校にも波及し、大変重大な問題に発

展するリスクがあると危惧している。本件は地域住民への説明と意見聴取を通じ納得を得られるよう対応すべきだが、市の考えを問う。

答 公共施設の建て替えについては、地域住民の理解を得ることが前提であり、その意見には丁寧に対応する必要があることから、個別に適宜対応していく。

市民サービスの向上

**西村敦議員(公明党)**  
第一庁舎は、建て替えにより、市民が勉強や軽食などで気軽に利用できるフリースペースが複数設置さ

**行徳支所にもフリースペース設置を  
関係部署と連携し検討していく**



れており、大変有益な場所となっている。行徳支所にもこのようなフリースペースの設置を行うなど、市民サービスの向上について、関係部署と連携を

とりながら検討していく。

答 行徳支所は、公民館や図書館との複合施設として、行徳地域の多くの住民から親しまれ、利用される施設であるため、機能拡充に関する期待も大きいものとして認識している。今後、フリースペースの整備を含めた更なる市民サービスの向上について、関係部署と連携を

## 防災

パティオビル

**石原よしのり議員(市民の力)**  
本八幡駅北口にあるパティオビルは、市内で唯一、震度6強の地震で倒壊の危険性が高いと判断された耐

**耐震対策 市はどのように  
指導、助言、必要な支援を行う**



震強度の低いビルである。ここには毎日多数の市民が出入りしており、その命を守るために一刻も早く耐震対策を実施すべきと考えるが、この課題に対し、市は

どのように対応するのか。答 当該ビルは不特定多数の市民が利用する商業ビルであることから、市としても安全性については大きな課題と認識している。そのため、建物所有者へは、耐震対策を行うよう、今後も積極的に指導や助言、必要な支援を引き続き行ってきたいと考えている。

市民団体との連携

**にしむた勲議員(市民クラブ)**  
災害時に役立つ専門知識を持ち、日頃から訓練しているガールスカウトの団体から、市の災害時の活動に

**災害協定を締結できるのか  
どのような連携ができるか検討する**



協力したいとの申し出があり協議を進めているが、このような市民団体と災害協定を締結することは可能か。答 本市の災害時の支援協定は事業者や業界団体と締

結する場合が多く、日頃の事業活動が災害時の支援につながる場合に締結している。ガールスカウトの活動はボランティア活動に近いと捉えており、協定の締結には馴染まないと考えているが、活動そのものは防災や減災に向けた大きな力になるため、どのような連携ができるのか検討していく。

南部地区の消防行政

**石崎ひでゆき議員(市民クラブ)**  
本市南部地区の消防行政については、火災件数は減少傾向にあるが、救急需要の増加や、老朽化した消防庁

**これまでどのように対応してきたか  
南消防署での救急隊増隊などを実施**



舎の建て替えなどの課題があるとのことである。増加する救急需要に対するこれまでの対応と今後の展望について、市の見解を問う。

答 これまでの対応としては、多様化する災害や増加する救急需要に対応するため、南消防署に救急隊を1隊増隊するなど、消防力の強化を図ってきた。今後も救急需要の増加が予測されるため、引き続き、いち早く救急車向けられるよう努めるとともに、隊員の負担軽減を図れるよう救急体制の整備に努めていく。

江戸川河川敷の安全対策

**国松ひろき議員(創生市川)**  
江戸川における水難事故への対策として、進入防止柵の代わりとなるツツジの植栽やAEDの設置のほか、

**国と市が連携して実施できないか  
関係者間で協議し調整していく**



有効であるが、国と本市が等間隔にライフジャケットを設置することなどが効果的であると考える。現在実施している視界確保のため柵の草刈り回数が増えることから、今後、各関係者間で協議し、調整していく。

連携し、より効果的なタイミングで実施できないか。答 江戸川河川敷における草刈りについて、堤防は河川管理者である国が、公園や野球場などは占用者である本市が、それぞれ実施している。国と本市では、その発注時期や回数が増えることから、今後、各関係者間で協議し、調整していく。